

# 入選

## まずは私から

高岡市立牧野中学校 二年 中山 愛唯

『水』というものは、私たち人間にとって欠かせないものである。人間の約六割は水でできている。体内の数%の水分をなくすだけで人間の体調は簡単に崩れてしまう。体内の二割の水分がなくなると人間は死亡するといわれている。

私は夏休みの部活動中に何回か熱中症になってしまった。今になって考えてみれば、原因はたくさんあるが、水分不足が原因の一つだと思う。頭痛や吐き気が酷かったことをよく覚えている。もう一度そうならないように、今は水分を忘れずにとるようにしている。人間にとって水というものがどんなに大切なのかを改めて知ることができたと今になって思う。そこで私はふと疑問に思った。人間が生きるために必要な水の量はどのくらいなのか。調べてみると、百L(リットル)だった。しかし、東京都水道局が発表した日本の一日の水の消費量は二百十四L(リットル)と一日に必要な水の量の約二倍だった。確かに私たちは、一日にたくさん水を消費している。例えば、体を洗う時、お風呂のお湯、料理をするときやその後片付け、車の洗車などあげたらきりがなくらいに私たちは一日に水をたくさん使っている。しかし、生きていくために必要な水の量は百L(リットル)なのだ。世界では、水不足で亡くなる人は一年間に百八十万人もいる。また世界で安全な水を飲めていない人は、二十一億人にのぼるといわれている。世界の総人口の約四割である。中には、遠くに水をくみに行ったり、汚染された水を仕方なく飲む人たちだっている。一方、私が十四年間生きている日本では蛇口をひねると消毒された安心安全に飲める水があたり前のように出てくる。そんなあたりまえの毎日を過ごしている。けれど、世界を見ると二十一億人もの人々に私たちに比べてのあたり前というものが存在しておらず、毎日地獄のような日々を過ごしている。想像なんてできないけれど、そう考えてみると私たちの

国はとても恵まれているなと思った。日本の一日の水の消費量である二百十四Lに比べて、世界を見れば、多くの国が一日二十Lにも満たない水で生きている。日本のほとんどの人たちが水を無駄にしているのではないかと思った。考えてみれば、シャワーの水や手を洗うときの水などを止めるときに「いめんどうになってしめるのを忘れてしまふことが多くあつた。水は無敵ではない。限りのある資源なのだ。そんなことをするくらいなら無駄になった水を水不足で苦しんでいる人たちに分けてあげたい。何度も何度もそう考えた。日本も水不足の国々に支援をしているが、十分にいきれていない。世界の先進国も支援をしているが、まだ全世界の人々が安全な水を飲める未来は遠い。科学の技術は進歩しているのにも関わらず、私たちにできることは本当に少ししかないのだ。

このままだと二千五十年には十人に四人が水を得られなくなるといわれている。このままでもいいのだろうか。今の私にできることは、ユニセフなどの募金活動に参加したり、節水の協力だと思う。私がいなくても他の人がやってくれるだろうと期待するより、まずは私から動いていこう。一人の力だったらちっぽけで小さなものだけど、世界中が手を取り合えば、今、世界的課題となっているSDGsでさえ達成できないことなどないはずだから。